



高知県



第 64 号 2011 年 7 月

農業技術センターニュース

目 次			
ピーマンの土壌病害複合抵抗性台木の育成	… 1	ピーマン類の雨よけ栽培における天敵を利用した害虫管理技術導入による作業負担軽減効果	… 5
ピーマン葉こぶ症の発生に及ぼす被覆フィルムおよび湿度の影響	… 2	ユリ‘シベリア’の夜冷栽培による生育障害抑制効果	… 6
施設キュウリ栽培ほ場のリン酸蓄積状況	… 3	高知県におけるブルーベリー有望品種	… 7
促成パプリカの炭酸ガス施用による増収効果	… 4	農業技術センターのフレッシュな新人研究員を紹介します	… 8

ピーマンの土壌病害複合抵抗性台木の育成

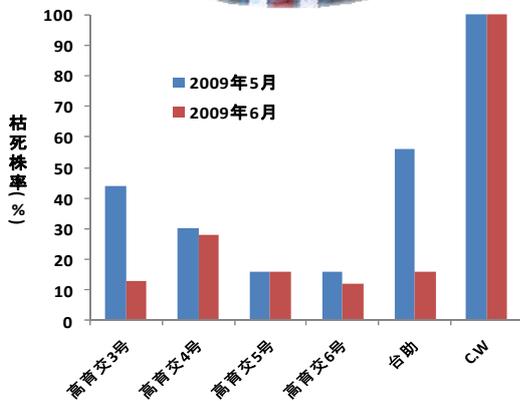
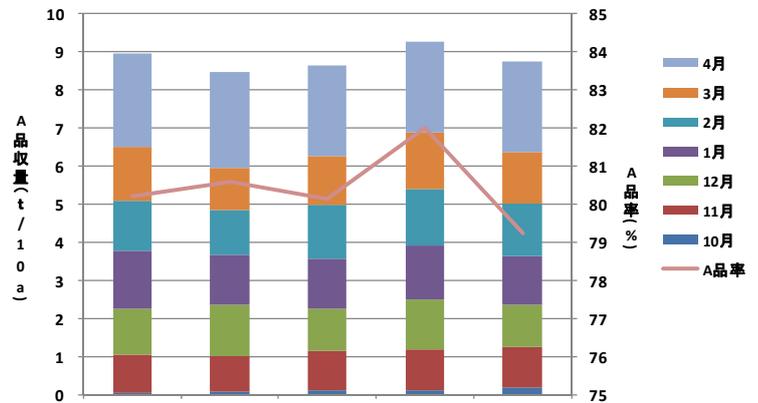


図1 青枯病抵抗性検定(2009)
台助: 抵抗性対照、C.W.(カリフォルニア・ワンダー): 感受性対照
検定個体数: 15~25株

青枯病およびトバモウイルスはトウガラシ属の難防除病害です。これらの被害を回避する方法として、抵抗性台木を利用した栽培法が期待されています。

これまで、市販品種や国内外から収集した遺伝資源から青枯病に抵抗性を示す固定系統を作出してきました。これらを親として、安定した青枯病抵抗性を示すF₁系統を育成しました(図1)。トバモウイルス抵抗性遺



高育交3号 高育交4号 高育交5号 高育交6号 台助(対照)
図2 月別A品収量(2011)
耕種概要: 穂木‘トサミドリ’、播種8月3日(台木)、8月6日(穂木)、定植9月28日
栽植密度: うね幅168cm、株間46cm(1290本/10a)、仕立て: 4本仕立て
収穫期間: 10月22日~4月30日

伝子L³をもつ台木として高育交3号、同4号、同6号、L^{1a}遺伝子をもつ台木として高育交5号の生産力検定を行いました。

その結果、高育交3号から同6号のA品収量は‘台助’台と同等以上でした。A品率はいずれの系統も‘台助’台より高く優れていました(図2)。今後は、それぞれの台木の特性について調査する予定です。

(園芸育種担当 細美祐子 088-863-4916)